

あんだんて通信



日に日に秋の深まりを感じる今日この頃、いかがお過ごしでしょうか？ 食欲の秋、スポーツの秋、そして芸術の秋。アンダンテの恒例行事「ハマグリアート展」が今年も始まります。

活動報告



大人も子どももカッパになる夏休み「川ガキ講座 2017」

(川ガキ講座事業)

7月30日、恒例の「川ガキ講座」を、匹見にて開講しました。

午前中はアユのつかみ取り、ゴリ突き、溪流釣りなどの川遊び、午後からは川流れ体験...とみんなでカッパになりました！ 開催にあたり、匹見上地区振興センターさんには本年も大変お世話になりました。

海ガキ講座 (協働と次世代育成をめざした益田市水環境保全プロジェクト)

8月5日、津田海岸にて「海ガキ講座」を開講しました。昨年からは始まり、本年から「海ガキ講座」として本格的にスタート。

津田海岸の清掃を行った後、シーカヤック教室や生き物採取を行いました。地元の方や海の家をやっている大学生にもお手伝いをいただき、津田海岸に笑顔と歓声が溢れました。



高津川流域環境教育研修会

(益田地区広域市町村圏事務組合との共催)

高津川流域の教育関係者を対象に、環境教育研修会を実施しました。

環境学習についてディスカッションと救急講習、さらにフィールドに出てガサガサやデジタル図鑑実習を行いました。

アンダンテ21では、10年以上に渡って地域の自然環境教育を実施していますが、今後はその中で蓄積したノウハウ等を伝えていき、地域の環境学習のリーダーを増やしていきたいと考えています。

石倉カゴを用いた益田川の生物資源量調査

(水産多面的機能発揮対策事業)

益田川津村橋周辺にて、「石倉カゴ調査」を実施しました。8月の引き上げ調査では、ウナギやエビ、カニ類などの資源量を調査しました。特筆すべきは、採捕したウナギのうち一匹が、昨年同所でタグ付けをして放流したものでした。天然ウナギを一年越しに再捕獲した例は少なく、大変貴重なデータとなりました。今後も調査を継続し、絶滅が危惧されているニホンウナギの生態解明に貢献できればと思います。



渡邊理事長が養老孟司先生らと講演をされました！

NPO法人「日本に健全な森をつくり直す委員会」さん主催のカルチャー教室で、渡邊理事長が高津川の成り立ち等について、地質学や生物学に基づいた研究結果を発表されました。また、ベストセラー「バカの壁」著者で脳科学者の養老孟司先生、地震学者の尾池和夫先生とトークショーを行いました。





ハマグリ稚貝調査 (水産多面的機能発揮対策事業)

チョウセンハマグリ(生息密度、殻長分布、打ちあがった死殻のツメタガイによる穿孔率)を行いました。津田海岸では例年以上に一歳貝が多い代わりに2~3歳貝が少ない結果となりました。しかし、漁場である中須海岸では1~3歳貝がまんべんなく観測され、量も多かったです。

今後も定期的に調査して、年間を通しての推移をみていきたいと思います。

中須海岸クリーンナップ魚釣り教室

(協働と次世代育成をめざした益田市水環境保全プロジェクト)

「中須海岸クリーンナップ投げ釣り教室」を開催しました。

中須海岸のゴミ拾いをした後に、共催の「全日本サーフキャスティング連盟・出雲おろちサーフC.C.」の皆さんに教えて頂き、投げ釣り教室。楽しみながら遊び場をキレイにします。

ゴミ拾いは300kg以上の大漁！キスは大漁...とまでは行きませんでした。お刺身と天ぷらを皆で賞味するには十分な釣果でした。



行事予定

どんぐり植林

日時：10月31日(火) 13:00より

場所：二条地区柏原植林地

「どんぐりの森づくり事業」で、戸田小学校の子供たちとどんぐり苗木の植林を行います。その後、スタッフで補植を行います。

益田川下流域のヨシ刈り作業

日時：10月28日(土) ~ 11月4日(土)

場所：益田川下流(今市川~河口まで) 作業日当:10,000円

益田川の環境保全活動の一環として取り組んでいるヨシの刈り取り作業を上記の期間で実施します。会員の皆様は、作業に参加できる日のアンケートを取らせていただこうと思いますので、一日だけでもご協力よろしくお願いします。

益田川一斉清掃

日時：11月26日(日) 8:00-10:00

場所：吉田小学校集合

上記のヨシ刈りを行った河原のゴミを回収します。小学生、自治会、企業などに声をかけて一斉清掃を行いますので、是非ご参加ください。シジミ汁の提供もある予定です。

第八回ハマグリ貝アート展

日時：12月13日(水)~12月17日(日) 10:00-18:00

表彰式は17日11時より。最終日は14:00まで展示し、片付け。

場所：グラントワ多目的ギャラリー

恒例のハマグリ貝アート展、今年はクリスマスシーズンの開催になります。多くのハマグリアート作品や会員によるコレクション展示があります。

※ 開場設営・搬入は12月11日に行いますので、お手伝いいただける会員の皆様をお願いします。

※ 16日(土)には、海の天然素材を使ったクリスマスリースづくり教室があります。

アンダンテ21忘年会

日時：12月17日(日) 18:00-

※ ハマグリアート展の撤収を行った後、事務所の片づけをして忘年会をします！

場所：アンダンテ21事務所(予定)

今年はハマグリアート展の最終日と重なるので、打ち上げを兼ねて忘年会を行います。

積極的に参加していきたいです

H29年入会 岡崎 恭子



今年9月に入会しました、岡崎恭子と申します。これから様々な活動でお世話になります。どうぞよろしくお願い致します。

私は6年前、長年勤めていた携帯電話の会社を退職し、現在は主婦の傍ら、音楽と絵を探求する日々を送っています。音楽では「DJ FUNKYLLER(ファンキラー)」として、年4、5回の自主イベントを行ったり、呼んで頂ければ色々な場でDJをしたりしています。今年で活動歴17年目ですが、イベントを行う上で「若者定住化、益田の活性化、老若男女の楽しめる場」の提供に少なからず貢献できれば...、という想いは、割と早い段階からありました。

まだまだ確固たるものは築けていませんが、周りの方にアドバイス頂いたりしながら、自分も楽しみながら頑張っていくと思っています。

絵のほうでは、ラインスタンプ「つるにぱ日和」シリーズを販売したり、「アフロブルー」というシリーズで女性のイラストを描いたりしています。

そして特技と言っては僭越ですが、父が釣りを趣味にしている事もあり、割と大きめの魚を捌く事ができます。

アンダンテの活動を通して、「色々な人」と「色々な体験」ができる事を楽しみに、なるべく多くの活動に参加したいと考えています。どうぞ宜しくお願い致します。

骨折して思うこと

事務局長 齋藤 遼



ご迷惑をおかけしました。

7月17日に行った益田川の夏季一斉清掃の最中に、転倒して足首を骨折してしまいました。骨をボルトでつなぐ手術をした後、入院、車いす生活を経て、杖なしで歩けるほどに回復しました。急な入院で関係者の皆様には多大なご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。また、アンダンテのイベントも多い時期でしたが、会員の皆様のご尽力で中止することなく行うことができました。ありがとうございます。以後、活動中の安全管理には十分注意したいと思います。

釣りに人として考えたこと。

ちなみに今回の事故、ゴミ拾い活動の最中に川の中に目をやった際に、一羽のウミネコがもがいているのを見たのがきっかけでした。何かが身体に絡まっているようでしたので、助けてやろうと釣り用のタモ網で鳥を掬おうとした際に転倒、足を捻って足首に激痛が…。とりあえずウミネコを引き上げると、写真のようにウミネコの足に釣り糸とルアーが身体に絡まっていたのです。結果的に鳥の足は助けられたものの、代わりに自分の足が折れてしまうという最悪の事態に、「一体なぜ俺がこんな目に」とやり切れない思いでした。人間の残した釣り具のせいで苦しんだウミネコの祟りと思える出来事ですが、それならば助けた私ではなく、このルアーを捨てた人間に災いが起こるのが筋というものではありませんか？

しかしよく考えるに、私自身今まで釣りをする中で、どれだけの釣り針、どれだけの釣り糸を自然の中に投棄してきたでしょう？ もちろん故意で捨てたものではありません。根がかり(水の中の岩などに仕掛けが引っかかること)や、大きな魚に切られたり、水中に残してきた針や糸の数は数え切れませんし、これからも釣りをする以上絶対に避けられません。そして、この「不本意なロスト」も確実に環境に負担を与えています。もしかしたら、自分が根がかりで切った仕掛けに生き物が絡まって死んでしまったことがあるかもしれませんし、回収しようとした誰かが怪我をしているかもしれません。こう考えたら、自分の中で納得がきました。

ところで、最近の釣り業界は、とにかく細い糸や繊細な仕掛けを推奨することが多いです。細い糸を使えば魚の喰いが良くなるのは当たり前のことですが、その分切れやすくなり上記の「不本意なロスト」が増えます。それにも関わらず細糸の使用を過剰に薦める風潮は如何なものでしょうか？ 思うに、良い道具を買わせたいメーカーの策略以外の何ものでもない気がします。そんな中、メーカーに踊らされず、釣り人ひとりひとりが考え、実践すべきことがあるはず。今回の骨折を機に、環境保全に関わる者、そして釣り人として考えさせられた次第です。

わさびクンのつぶやき～第三章 根茎のおろし方～ オーベルジュわさび支配人 三浦 祐二

根茎とは、ワサビの最も高価で美味しい部位のこと。以下そのおろし方の極意を一部紹介します。詳しくはアンダンテHPを確認してくださいね。

♪厨房で下ごしらえ♪

※ヒゲ根が取り除かれたワサビは、以下の手順1～2を省いて下さい。

1. ワサビに絡みついた泥や砂を、流水と手で大雑把に取り除く。
2. ヒゲ根の根元を指先でつまみ、手首を捻りながらむしり取る。
3. 流水とタワシで、ワサビについた砂や泥を完全に取り除く。
4. 小さい包丁を使い、黒い部分(墨ないし黒墨と呼ばれる)等を大雑把に削り取る。
※墨は風味を損ねますが、無農薬の証拠です。多少残っていても無害です。
※根茎の先端に墨が多くある場合は、先端ごと切り取って下さい。
※皮やコブの部分に辛味や多くの風味がありますので、削り過ぎないで下さい。
※茎が長すぎる場合は、適宜切って短く整形して下さい。
※茎の先端が黒くなっているのが気になる場合は、うすく削いで取って下さい。
5. キッチンペーパー等で、表面の水分とワサビの削りかすを取り除く。



♪食卓で小まめに♪

※おろし直後は苦味があり、辛味や風味に乏しくなります。というのも、細胞を破壊して初めて酵素が苦味に働き、辛み成分や風味が変わるからです。3分後がその作用のピーク。なので、必要な時に必要な分量だけ「こまめに」すりおろして下さい。

1. ワサビに適した目の細かいおろし器を使って、ワサビをゆっくり、円を描く様にすりおろす。
※「オーベルジュわさび流」は茎と反対側、下からおろします。
※コブの部分は割れやすいので、適宜ワサビを斜めに傾けるなど工夫して下さい。
※鮫皮おろしの場合、力を抜く方向に注意して下さい。
2. すりおろしたワサビを小皿等に移します。さあ召し上がれ！
※小皿に移さず、ローテーションしながら、おろし器から直接とつても可。
※大き目の茎を1本むしりとり、スクレーパー(ワサビをとりわける匙)代わりにすると便利。
3. 余った根茎や茎はアンダンテ21HP中の当該項目を参照して保存しましょう。

皆さんの声をお寄せください

メンバーズコラムのコーナーでは、アンダンテ21会員の皆様からの寄稿をお待ちしております。自己紹介、趣味、近況、アンダンテの活動への思い...テーマは何でも結構です。1000字以内程度で(できれば画像付きで)メールにてご寄稿いただければ、次号の通信に掲載させていただきます。

【WANTED】 高津川のサケを探しています



アンダンテ21では、南限のシロザケのDNAを解析したいという北海道区水産研究所からの依頼を受け、サンプル用のサケを探しています。

益田周辺の河川(高津川、益田川等)において、弱った個体や産卵を終えて死んだ個体(少々腐敗が進行していても可)を発見された場合は、極力川から動かさず、事務局または佐々木副理事長までご一報をお願いいたします。

新規会員募集中

活動の拡大のため、新規会員や協賛企業を募集しています。会員の皆様におかれましても、お声掛けにご協力ください。会員募集と申し込み用紙の資料は事務所にございます。
個人年会費 10000円(正会員)、3000円(賛助会員) 企業協賛金 一口50000円

発行元: NPO法人アンダンテ21事務局
〒690-0032 益田市水分町18-10
TEL/FAX: 0856-24-8661
E-mail: andante2100@gmail.com

